

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400040
法人名	株式会社 たかちほ
事業所名	グループホーム もみの木
所在地	愛媛県西予市宇和町上松葉165番地-1
自己評価作成日	平成 22年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はご利用者一人ひとりを大切にできるよう取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は連携して利用者の状況を常に把握し、近くの川に鴨を見に行ったり、楽しく食事ができるよう工夫するなど、利用者本位の支援を心がけている。ホーム内も木材をふんだんに使用しているため、木のぬくもりを感じる落ち着いた雰囲気となっており、ゆったりとした時間が流れている。居間のテレビはつけっ放しにせず、利用者の見たい番組を把握して、必要以上に刺激とならないよう気をつけ、共用スペースに自分の居場所を確保できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム もみの木

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 河野 智

評価完了日 22 年 2 月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎月の会議には理念について話し合い共有化している。ケアプランの作成、生活支援においても基本理念に基づいて考え行動するように努力し、利用者の方々の生活を支えている。また、毎月目標を決め実践している。</p> <p>(外部評価) 理念の見直しも検討したが、現在のものをより深く追求していきたいという思いで、開設当初からの理念を掲げている。具体的に実践につなげるために、会議で月間目標を設定し、職員全員で共有しながら取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の交流である五っ鹿、亥の子などに来ていただいている。又、散歩・買い物などに行くと、声をかけていただき顔なじみになっている。</p> <p>(外部評価) 夏祭りを主催して地域の方と交流したり、秋祭りには「五っ鹿」に来てもらい、近所の方と一緒に楽しんでいる。また、近くの店に買い物に行ったり散歩をする際に、顔見知りの方とは日常的にあいさつを交わしている。</p>	近くに民家が少なく日常的なつきあいがしづらい環境にはあるが、現在行っている行事等を通じて、さらに深いつきあいができるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域に向けて新聞を出し、ホームの取り組みや認知症について知ってもらう取り組みをしている。又、運営推進会議をとうして、ケアのことや取り組みを伝えるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの行事や利用者の様子の報告や、意見交換を行っている。家族や外部からの意見を聴くことで中から見えないことや、どんなことで困っているかなど参考になっている。ホームで抱えている問題点について、参加者にも考えていただいている。	
			(外部評価) 民生委員や老人クラブの方に参加してもらい、活発な意見交換がされている。急用が入る等の理由で参加者が少なくなることもあり、多方面からの参加が得られるように交渉するなど工夫している。	地域の様々な立場の方や、議題によってはその内容に詳しい有識者等に参加してもらい、今以上にサービスの質の向上につながる会議としていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者に行事に参加してもらいホームの実情や取り組み状況を伝えている。	
			(外部評価) 運営推進会議や行事等にも参加してくれ、また困ったことやわからないことも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は鍵を掛けず、自動ドアで自由に開くようになっている。夏は自動ドアも切って全開にしている。外出の察知、外出傾向時は職員の連携をうまくとるようにして、外出は付き添っている。職員は利用者がどこにいるか把握しており見守りができている。	
			(外部評価) 玄関は、自由に出入りできるようになっている。職員は連携して利用者の状況を常に把握し、外出を希望する利用者につき添うようにしている。また、言葉の拘束についても職員同士で注意し合う等、日頃から気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員全員が虐待の意味を理解し、虐待のないケアができるように努めている。声かけや言葉遣い、声のトーンなどに気をつけたケアを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用される利用者もおられないので協力体制取れていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時にホームの方針や理念、契約の内容について、十分に説明を行っている。また、不明な点や質問等にも、お互いが納得できるよう努力している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 重要事項説明書にも明示しているが家族会、面会時にも伝え意見を聞いている。玄関に意見箱を設置している。	
			(外部評価) 面会時に家族と職員がよく話をしており、些細な意見や要望も聞き逃さないよう職員は努力している。また、年2回、大きな行事の時に家族会を開催し、家族の意見を聞き取るような機会も設けている。出された意見は会議で共有し、運営に反映できるよう話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会議や申し送りなどを通して職員が気軽に意見を出せるよう配慮している。また、出た意見や提案に対し、早期実現に向けて努力している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、会議や普段の業務中でも職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。リーダー的な職員が意見を取り、まとめてくれることもある。出された意見は管理者を通じて運営者に提案され、運営者も可能な限り意見を聞き入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 各職員は、自己のケア計画、自己課題に取り組み目標をもてるようにしている。また、現場ではケアの申し送りの方法、記録時間の工夫などを行なっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 勤務の許す限り研修に参加することにしてしている。研修後は報告書を作成し、職員会議で発表し職員全員が周知できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に参加したり、同法人内でもスタッフ同士、リーダー同士で交流がある。又、他のホームの方が見学に来られ交流を図っている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、利用者本人から希望・要望や困っていること、不安な点に思っていることなど話を伺っている。ホームに直接、電話、見学がある場合はその場で対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、利用者本人から希望・要望や困っていること、不安な点に思っていることなどに話を伺っている。ホームに直接、電話、見学がある場合はその場で対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、施設の相談員が窓口になっているが直接ホームに電話がある時は相手が困っていることを聞き出すようにしている。その際ホームに空きがない場合には、他のホームを紹介したりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者一人ひとりできる事を把握しており、一緒に喜び、感謝している。又、利用者から学ぶことが多く、共に支えあいながら一日を生活ができています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) お花見、お月見、餅つきなど参加できる場面や機会を多くし、相談できる関係を築いていることにより共に支えあえることができています。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 気軽に面会できるよう配慮している。面会がない方には、家族などに、電話、手紙などで状態を報告し関係が保てるようにしている。 (外部評価) ほとんどの利用者が地元出身で、家族や友人知人がホームを訪ねてくれたり、外出時には利用者の馴染み深い場所に出かける等、関係が途切れないよう工夫している。また、利用者同士やホーム周辺の店等、新しい馴染みも大切にしていけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) うまが合う方同志はいい関係作りができています。世話好きな利用者は布団をかけたり、靴を履かせたり、体調が悪い方を労わったり心配されたりする。孤立しがちな利用者には職員が間に入り関わりを持っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去先に落ち着くまで訪問し、お互いの情報交換、家族とも話し合いをしている。又、街で偶然に出会うときも必ず声をかけてくださっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人や家族から希望を聞いたり、会話やしぐさ、表情などからその人の思いや希望を把握するように努めている。	
			(外部評価) 利用者本人から行きたいところやしたいことを聞き取ったり、普段の言動や表情等から思いを汲み取り、日々の生活に反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査表や、本人、家族からこれまでの暮らしや生活環境を聞いて把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員間で情報を共有し、一日の暮らしぶりを介護記録に書いており、把握できている。また、その日の健康状態・活動の様子をみて、出来ること出来ないことを把握し、適切に支援出来るよう努力している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 面会時に話し合っているが遠方で来られない方には手紙や電話で連絡を取って意見を聞き、反映している。利用者さんには、カンファレンスに参加してもらったり希望を聞いたりしている。(全員はまだ聞けていない) (外部評価) 利用者ごとの担当職員が原案を作成し、カンファレンスにて全職員で話し合っている。利用者がカンファレンスに参加することもあり、家族の思いや希望なども聞き取りながら介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日勤帯は黒字、夜勤帯は赤字、変化がある場合は青字に色分けして記録している。個別の様子を明確に記録し情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 事業所間で連携を取り利用者の家族の状況、状態に合わせて、その人に合ったサービスが受けれるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員さんに出席していただき、情報交換などを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 利用者本人及び家族の希望を大切に、納得されて 適切な医療が受けれるよう支援している。家族による 病院受診時も、ホームでの様子が分かるよう情報提供し ている。</p> <p>(外部評価) 入居以前からのかかりつけ医を継続して受診している 利用者もいる。その場合は、受診は家族での対応を基 本としているが、利用者の状態や家族の状況等を考慮 して柔軟に支援している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護職と相談しながら健康管理に気をつけている。 又、病院受診時は必ず職員が立会い、正確に症状をお 伝えし、適切な治療のための支援が出来ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院した際は、病院関係者との情報交換を行い、早期 退院のための支援を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 早い段階に家族と話し合いをし、系列の病院、老健施 設、家族が希望する所に転居・転院するので重度化、 終末期がない状態である。看取りの方針は作成してな いが、ホームとしての方針は決まっている。</p> <p>(外部評価) 看取りは行わないとの方針を明確に定めており、本人 及び家族にも利用開始の時点できちんと説明してい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルを作っている。緊急時の連絡方法や日常のバイタルの測定方法、ご利用に応じた緊急対応など話し合いをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火設備や定期点検しており、非難訓練も実施している。近所の方の協力を得られるよう普段から働きかけている。 (外部評価) スプリンクラーの設置が完了している。系列の老人保健施設と合同で、地域の方にも参加してもらっての消火訓練等を行っている。緊急連絡網の整備や災害についての話し合いは行っているが、具体的な避難訓練は十分できているとまでは言えない。	緊急連絡網は作成し直したので訓練実施は予定しているが、具体的な想定を付与した避難訓練を実施し、さらなる安全を確保するよう取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりにあった言葉かけを行っている。また、排泄や更衣、入浴などの際のプライバシーの配慮や、声かけのタイミングなどについても、自尊心を尊重した配慮を行っている。 (外部評価) 職員は、日常の言葉づかいも利用者の誇りを傷つけないよう気をつけている。また、入浴等の介助には同性介助を基本とする等、利用者のプライバシーにも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 外出の有無、散歩、買い物等の内容、献立、誕生日の食事など希望をしっかり取り入れている。意思表示が困難な利用者は表情などから読み取り尊重するよに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースに沿った生活を優先し、その日の体調や希望に合わせて支援している。他の利用者に迷惑を掛けない範囲の自由を尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族と利用者さんと相談しながら髪型を決め職員がカット、髪染めしている。現在美容院へ行く方はありません。服装については、季節にあった本人が望む服装ができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 彩りを考え、見て楽しむものになっている。食べる前には、献立の説明をし雰囲気作りも工夫している。食事の下ごしらえ、配膳、片付けなどできることを手伝ってもらい一緒に準備や調理をしている。しかし、声かけしても拒否される場合もあり出来ない時もある。 (外部評価) 食事の前にメニューの説明をし、利用者と職員と一緒に食事している。介助が必要な利用者也会話に参加できるよう、職員がさりげなく介助しながら、周りの利用者との仲介をし、楽しく食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 系列の管理栄養士にメニューの確認をしてもらいバランスの取れた献立にしている。又、食後に摂取量を確認し記録している。利用者の状態、体調に合わせて食事を提供している。食事・外出・入浴後など事あるごとに水分補給に気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) できるだけ利用者自身にしてもらい細かい部分など出来ない所は介助し、口腔内を清潔に保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者全員の排泄パターンを表でチェックしていてそれぞれのパターンに合わせてトイレ誘導している。オムツ使用や失禁の軽減に職員で話し合いそれに向けて努力している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンについて、排泄チェック表を用いて把握している。定期的な声をかけたり、食事や入浴の前等にさりげなくトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて、便秘の有無を確認するようにしている。毎朝の牛乳やバナナを食べてもらっている。適度な運動や入浴時の腹部マッサージをして自然排便に心がけている。それでも排便がない場合は、服薬にて対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴したい日、時間等、利用者に聞きできる限り希望に添うようにしている。毎日入りたい方は毎日入浴している。入浴を度々拒否される利用者に対しては声かけの工夫している。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回の入浴としているが、希望で毎日入浴している利用者もいる。夜間帯の入浴も、本人の希望や職員の勤務状況等に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者については、無理強いをしないよう利用者に合った声かけをしながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけ身体を動かすように支援し、リズムある生活で安眠できるようにしている。居間や居室で少し休める場面をつくるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬は個別にケースに保管し、日勤のリーダーがその都度薬を出し、利用者に手渡し、介助している。利用者全員の薬の処方箋はファイルに全部閉じている。職員が利用者それぞれの服用している薬の作用、副作用について理解している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) おかずの盛り付け、テーブル拭き、お茶を入れる、配膳、食器洗いなど利用者がそれぞれに楽しみながら役割を果たすことの支援ができています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調に合わせて買い物、散歩、ドライブなど希望に添って外出支援できている。天気の良い日は前庭に出て、外気浴、気分転換をし、日常的に外出が出来る支援を行っている。	
			(外部評価) 近くの川に鴨を見に出かけたり、ホームの近所を散歩したり、お寺や公園にホームの車で出かけたりしている。系列施設の大きな車を借りてドライブをすることも。また、利用者が家族と買い物や外食に行くことも積極的に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族と話し合って、管理できる利用者は自身で金銭管理している。他の利用者は、5,000円程度預かり、面会時にノートをチェックしてもらっている。買い物に出かけた時、利用者が支払う楽しみの援助も行なっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者に頼まれたら手紙の投函の支援をしている。電話を掛ける時は、ダイヤルの介助や静かな場所で座って、落ちついて電話を掛けれるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 木造建てであり、床も木材を使用しており居室、居間も畳を使っているのも木の温もりに包まれ落ち着いた雰囲気である。日中は見ないテレビは消すようにしている。</p> <p>(外部評価) ホーム内は木材をふんだんに使用しているため、落ち着いた雰囲気があり、温かみがある。居間の中央にはゆったり座れる大きくしっかりしたテーブルと、座り心地の良いイスがあり、くつろぎのスペースとなっている。テレビはつけっ放しにせず、利用者の見たい番組を把握して、必要以上に刺激とならないよう気をつけている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 居間はゆったりとしたスペースでフローには10人掛けのテーブルが設置しており、ゆっくりくつろげる。又、畳のスペースにはこたつもあり、横になったり座ったり、居場所を確保できている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者の居室には仏壇や馴染みの写真、家具などが持ち込まれ安心して過ごせるようになっている。</p> <p>(外部評価) 家族の写真や仏壇、使い慣れた家具なども自由に持ち込むことができる。利用者や家族と相談しながら、使い勝手がよいよう配置して、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 夜間はトイレの電気を付けておく。トイレ、居室にはプレートを配置している。職員が利用者の認知状態にあわせて自然に支援できるようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891400040
法人名	株式会社 たかちほ
事業所名	グループホーム もみの木
所在地	愛媛県西予市宇和町上松葉165番地—1
自己評価作成日	平成 22年 2月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はご利用者一人ひとりを大切にできるよう取り組みをしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は連携して利用者の状況を常に把握し、近くの川に鴨を見に行ったり、楽しく食事ができるよう工夫するなど、利用者本位の支援を心がけている。ホーム内も木材をふんだんに使用しているため、木のぬくもりを感じる落ち着いた雰囲気となっており、ゆったりとした時間が流れている。居間のテレビはつけっ放しにせず、利用者の見たい番組を把握して、必要以上に刺激とならないよう気をつけ、共用スペースに自分の居場所を確保できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループもみの木

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 原添照子

評価完了日 22年 2月 1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 毎月の会議には理念について話し合い共有化している。ケアプランの作成、生活支援においても基本理念に基づいて考え行動するように努力し、利用者の方々の生活を支えている。また、毎月目標を決め実践している。</p> <p>(外部評価) 理念の見直しも検討したが、現在のものをより深く追求していきたいという思いで、開設当初からの理念を掲げている。具体的に実践につなげるために、会議で月間目標を設定し、職員全員で共有しながら取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事等は積極的に参加しているが、日常的な交流はできてないので努力していきたい。</p> <p>(外部評価) 夏祭りを主催して地域の方と交流したり、秋祭りには「五つ鹿」に来てもらい、近所の方と一緒に楽しんでいる。また、近くの店に買い物に行ったり散歩をする際に、顔見知りの方とは日常的にあいさつを交わしている。</p>	近くに民家が少なく日常的なつきあいがしづらい環境にはあるが、現在行っている行事等を通じて、さらに深いつきあいができるような取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の一部には理解してもらっているが、まだ不十分である為、地域に向けて新聞を出し、ホームの取り組みや認知症について知ってもらう取り組みをしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの行事や利用者の様子の報告や、意見交換を行っている。家族や外部からの意見を聴くことで中から見えないことや、どんなことで困っているかなど参考になっている。	
			(外部評価) 民生委員や老人クラブの方に参加してもらい、活発な意見交換がされている。急用が入る等の理由で参加者が少なくなることもあり、多方面からの参加が得られるように交渉するなど工夫している。	地域の様々な立場の方や、議題によってはその内容に詳しい有識者等に参加してもらい、今以上にサービスの質の向上につながる会議としていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市担当者に行事や運営推進会議に参加してもらうことで意見、助言をいただいている。	
			(外部評価) 運営推進会議や行事等にも参加してくれ、また困ったことやわからないことも気軽に相談できる関係が構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者さんには自由に行動してもらっている。また、玄関は施錠していない。職員は利用者さんがどこにいるか把握しており見守りができている。	
			(外部評価) 玄関は、自由に入出りできるようになっている。職員は連携して利用者の状況を常に把握し、外出を希望する利用者につき添うようにしている。また、言葉の拘束についても職員同士で注意し合う等、日頃から気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修報告で話し合いをもち職員同志で意見交換をしている。また、言葉の暴力には特に気をつけるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在利用されている方がいない。学ぶ機会をもち勉強会をしていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が書面をもって分かり易く丁寧に説明して理解、同意をえている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置しているが利用がないので、面会時に家族と話し合い意見、要望を聞いている。	
			(外部評価) 面会時に家族と職員がよく話をしており、些細な意見や要望も聞き逃さないよう職員は努力している。また、年2回、大きな行事の時に家族会を開催し、家族の意見を聞き取るような機会も設けている。出された意見は会議で共有し、運営に反映できるよう話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員会議や申し送りなどを通して職員が気軽に意見を出せるように配慮している。また、出た意見や提案にたいして早期実現に向けて努力している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、会議や普段の業務中でも職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに心がけている。リーダー的な職員が意見を取り、まとめてくれることもある。出された意見は管理者を通じて運営者に提案され、運営者も可能な限り意見を聞き入れている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 格職員は、自己のケア計画、自己課題に取り組み目標をもっているようにしている。また、現場ではケアの申し送りの方法、記録時間の工夫などを行なっている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 勤務の許す限り研修に参加することにしてしている。研修後は報告書を作成し、職員会議で報告し職員が周知できるようにしている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) グループホーム連絡協議会に参加したり、同法人内でもスタッフ同士、リーダー同士で交流がある。また、他のホームの方が見学に来られ交流を図っている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、利用者本人から希望・要望や困っていること、不安に思っていることなどに話を伺っている。ホームに直接、電話、見学がある場合はその場で対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっている。見学に来ていただき、利用者本人から希望・要望や困っていること、不安に思っていることなどに話を伺っている。ホームに直接、電話、見学がある場合はその場で対応している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 居宅のケアマネージャー、老健施設の相談員が窓口になっているが直接ホームに電話がある時は相手が困っていることを聞き出すようにしている。その際ホームに空きがない場合には、他のホームを紹介したりしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来る事を一緒にして、共に暮らす関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時に利用者の状態を伝えている。日常の変化があった時は家族に電話連絡し、状態を把握していただくようにしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 気軽に面会できるよう配慮している。面会がない方には、家族などに、電話で状態を報告し関係が保てるようにしている。 (外部評価) ほとんどの利用者が地元出身で、家族や友人知人がホームを訪ねてくれたり、外出時には利用者の馴染み深い場所に出かける等、関係が途切れないよう工夫している。また、利用者同士やホーム周辺の店等、新しい馴染みも大切にしていけるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 相性の良し悪しを考えてテーブルの席を決め、間に職員が入り関係を良くなるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて情報を提供している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の思いや希望を出来る限りの事はしている。希望のない方は態度や行動を見てケアにいかせるように努めている。	
			(外部評価) 利用者本人から行きたいところやしたいことを聞き取ったり、普段の言動や表情等から思いを汲み取り、日々の生活に反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時のサマリーやアセスメントに目を通したり、家族からこれまでの暮らしを聞いて把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活のリズム、パターンを把握している。能力に合わせて無理のない対応をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 月一回ケアカンファレンスを実施し、その人にあった 介護計画を話し合っている。	
			(外部評価) 利用者ごとの担当職員が原案を作成し、カンファレン スにて全職員で話し合っている。利用者がカンファレ ンスに参加することもあり、家族の思いや希望なども 聞き取りながら介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日々の様子は介護記録に記入している。必要な情報は 申し送りノートに記入し職員間で共有できるようにし ている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の家族の状況、状態に合わせその人にあった サービスを提供している。また、家族が同行できない 場合は眼科・歯科・かかりつけ医の受診などの支援を 行なっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員さんに出席していただき、情 報交換などを行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の同意の上希望する病院を受診している。	
			(外部評価) 入居以前からのかかりつけ医を継続して受診している 利用者もいる。その場合は、受診は家族での対応を基 本としているが、利用者の状態や家族の状況等を考慮 して柔軟に支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 受診時に看護師に相談、アドバイスをうけている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した場合はサマリーを書き、提出し報告をしてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 早い段階に家族と話し合いをし、系列の病院、老健施 設、家族が希望する所に転居・転院するので重度化、 終末期がない状態である。	
			(外部評価) 看取りは行わないとの方針を明確に定めており、本人 及び家族にも利用開始の時点できちんと説明してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時のマニュアルを作っている。緊急時の連絡方法や日常のバイタルサインの測定方法、ご利用に応じた緊急対応など話し合いをしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防火設備や定期点検しており、非難訓練も合同で実施している。 (外部評価) スプリンクラーの設置が完了している。系列の老人保健施設と合同で、地域の方にも参加してもらっての消火訓練等を行っている。緊急連絡網の整備や災害についての話し合いは行っているが、具体的な避難訓練は十分できているとまでは言えない。	緊急連絡網は作成し直したので訓練実施は予定しているが、具体的な想定を付与した避難訓練を実施し、さらなる安全を確保するよう取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々に合わせた声かけ、言葉かけに配慮しながら対応している。 (外部評価) 職員は、日常の言葉づかいも利用者の誇りを傷つけないよう気をつけている。また、入浴等の介助には同性介助を基本とする等、利用者のプライバシーにも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 顔色、行動を見て感じ取るようにしている。利用者に分りやすく説明して自己決定できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースが出来ているので、それに合わせて対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の希望で美容院に行かれる方もいる。ホームでの散髪を希望される方には月一回支援している。服装については、季節にあった本人が望む服装ができるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 箸、食器等、個別にし好みにあった食事を提供している。食事の準備、片付けなどできることは手伝ってもらい一緒にしている。	
			(外部評価) 食事の前にメニューの説明をし、利用者と職員と一緒に食事している。介助が必要な利用者也会話に参加できるよう、職員がさりげなく介助しながら、周りの利用者との仲介をし、楽しく食事ができるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日の食事量のチェック、記録している。利用者の状態、体調に合わせて食事を提供している。夜間の水分補給にも気をつけている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアできない方には介助し、出来る方は声かけ誘導、見守りしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄パターンを把握しており、トイレの声かけ、誘導している。利用者の状態に合わせてポータブルトイレ、オムツにて対応している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンについて、排泄チェック表を用いて把握している。定期的な声をかけたり、食事や入浴の前等にさりげなくトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を見て水分量を増やしたり、入浴時に腹部マッサージしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴チェック表や本人の希望を聞いて入浴支援している。	
			(外部評価) 基本的には2日に1回の入浴としているが、希望で毎日入浴している利用者もいる。夜間帯の入浴も、本人の希望や職員の勤務状況等に応じて柔軟に対応している。入浴を拒否する利用者については、無理強いをしないよう利用者に合った声かけをしながら、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 部屋の温度、照明を本人の好みに合わせたり、湯たんぽ、電気アンカ等を使用して安眠を促している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 本人の名前を確認して服用介助している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、食器拭き等それぞれの役割を持って生活している。おやつの時歌を唄ったり体操し楽しく生活している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の体調に合わせて買い物、散歩、ドライブなど希望に添って外出支援できている。	
			(外部評価) 近くの川に鴨を見に出かけたり、ホームの近所を散歩したり、お寺や公園にホームの車で出かけたりしている。系列施設の大きな車を借りてドライブをすることもある。また、利用者が家族と買い物や外出に行くことも積極的に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理する方がいないので、小遣い帳を作り職員が管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話を希望する時取りつきしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間の雰囲気が良くて自然に集まって来る。壁には利用者の写真や季節を感じるカレンダーを作って貼っている。	
			(外部評価) ホーム内は木材をふんだんに使用しているため、落ち着いた雰囲気があり、温かみがある。居間の中央にはゆったり座れる大きくしっかりしたテーブルと、座り心地の良いイスがあり、くつろぎのスペースとなっている。テレビはつけっ放しにせず、利用者の見たい番組を把握して、必要以上に刺激とならないよう気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居間での定位置があり気の合う者同士で過ごされている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の居室には馴染みの写真や家具などが持ち込まれ安心して過ごせるようになっている。	
			(外部評価) 家族の写真や仏壇、使い慣れた家具なども自由に持ち込むことができる。利用者や家族と相談しながら、使い勝手がよいよう配置して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 夜間はトイレの電気を付けておく。トイレ、居室にはプレートを設置している。職員が利用者の認知状態に合わせて自然に支援できるようにしている。	